



今年度入学・入園式(写真左上から時計回りに大学・短期大学部(4月5日)／中学校(4月7日)／高等学校(4月7日)／幼稚園(4月12日)) ※詳細をP13で紹介しています。

特集

新学長・新校長が語る

筑女の未来

～ 創立110周年に向けた「筑女プラン」をとおして～

今年度から大学・短期大学部に若原道昭学長、中学・高等学校に中嶋利昭校長が就任し、

筑紫女学園は新たなスタートを切りました。

そこで今回は、現在策定中の学園中期計画「筑女プラン」をとおして見えてくる

「筑女の未来」について、お二人に語っていただきました。



新学長メッセージ

明日へと動き続ける大学へ 一人ひとりの力を 同じベクトルへ

筑紫女学園大学・短期大学部
若原 道昭 学長

【Profile】わかほら・どうしょう●1947年鳥取県生まれ。京都大学大学院教育学研究科博士課程修了。1992年に龍谷大学短期大学部教授に就任し、以降、同大学短期大学部部長、副学長、知的財産センター長を経て、2007年に第17代龍谷大学学長に就任。本年4月より、筑紫女学園大学・短期大学部学長に就任。専門は「教育哲学」。

大学が「競争」と「評価」によつて真価が問われる時代の中で

全

教職員が一丸となって
本学の明日を創りあげる大切な時に学長に就任することとなりました。微力ながら、精一杯、職責を務めんと身の引き締まる思いです。なぜなら、大学・短期大学部を取り巻く環境は、年々厳しさを増しているから
です。18歳人口が再び減少し始める5年後を前に全入時代を迎えようとしている現在、大学では学生の多様化に応じた、きめ細かなサポートが不可欠となりました。また、経済・産業界のグローバル化を背景に、大学にも国際的な競争力が求められています。こうした社会情勢に
えるためには、教育と研究の質を高めなければなりません。知識基盤社会と言われる21世紀において大学が担う役割は重く、学生の就職も厳しい状況が続いています。つまり、ひとやうというならば、大学は今、「競争」と「評価」にさらされているのです。

こうした中、本学は、浄土真宗の教えに基づいた百年を超える女子教育の実績を強みとしています。私は仏教系の科目が必修として10単位も組み込まれているカリキュラムに驚き、素晴らしいことだと思いました。各大学が個性のアピールに悩む中、本学ほど建学の精神を打ち出すことのできる大学は稀有なのではないでしょうか。

あるべき姿に向けて「筑女プラン」の各論へ

東

日本大震災以降、欲望の追求により、便利さや豊かさを手に入れてきたこれまでの社会を見直す傾向が強まっていますが、仏教はそうした方とは考えを大きく異にします。仏教は人間の欲が限りないことを自覚したうえで、欲を抑え、コントロールするよう導くもの。また人間だけを特別扱いすることを良しとしません。その教えを伝え、専門の学識を「何のために」誰のために「役立てるのかを意識し、他を気遣う生き方や価値観、公共心を育みたいと願っています。それこそが、

本学ならではの教育に他なりません。

その実現のために全教職員の旗印として、創立110周年に向けた5カ年計画「筑女プラン」の総論が完成しました。これからは、いよいよ各論。5年後の到達目標に向けてアクションプランを各部署との間で議論し、実施案を詰めている段階です。

多くの時間とエネルギーを費やそうとも、大切なのは議論を重ねて全員が参画できるプランをつくり上げること。プランの実施を通じた教職員一人ひとりの成長も期待するところです。また、大学の為すべきことが量的質的に拡大した今、意思決定のスピード感を増し、効率的かつ戦略的、機動的に本学を運営していくためにも、「筑女プラン」は不可欠です。

大学が動いているとキャンパスが活気づき、そのエネルギーは学生にも伝わるもの。本学は、厳しい状況を前進へのエネルギーに変え、「筑女プラン」の達成によつて、次代も社会の希求に応えてまいります。

「筑女プラン」の
実現に向けて
今、学園が動いています

「筑女プラン」は「学園の使命」「8つの将来ビジョン」左記参照をもとに、創立110周年(2017年)のあるべき姿(到達目標)と「ブランド展開実施基本方針(アクションプラン)」から構成されています。アクションプランは各学校共通の12項目からなり(左記参照)、それぞれ今後5年間で重点的に取り組む課題や目標を明確にし、教職員をはじめとするステークホルダーが共有できるものを作り上げていきます。

現在、具体的な行動計画としての「アクションプラン」の完成を目指しながら、並行して今年度から実施可能な内容については、すでに行動を開始しています。

これらの進捗状況を年度ごとに検証しながら、さらに魅力ある「学園づくり」に向けて「深化」を遂げていく予定です。

8つの将来ビジョン

- 一、<いのち>を大切にする教育実践
- 二、女子教育の社会発信
- 三、学園の総合力による教育改革
- 四、きめ細かな支援体制づくり
- 五、学びを支えるキャンパス整備
- 六、学園内のつながり拡充
- 七、地域社会のつながり保持
- 八、福岡と世界を結ぶ国際交流

「筑女プラン」概略



新校長メッセージ

よく見る、よく聴く、 よりよく語りかける。 先生、そして生徒との 対話を通して

筑紫女学園中学・高等学校
中嶋 利昭 校長

【Profile】なかしま・としあき ●1951年福岡県生まれ。京大文学部数学科卒業。福岡県立筑紫丘高等学校(教諭)、福岡県教育委員会教職員課(人事管理主事)、福岡県立早良高等学校(校長)、福岡県立修猷館高等学校(校長)を歴任し、本年4月より、筑紫女学園中学・高等学校校長に就任。平成23年度文部科学大臣教育功労者表彰。

本校最大の魅力は
生徒一人ひとりが支える
百余年の伝統と信頼

4月6日の始業式で私は、生徒へ「筑女の魅力とは何だろう」と投げかけました。私の答えは明確です。それは、学外の人に評価される「きちんとした佇まい」であり、「地域からの信頼」です。百年を超える伝統は、ただ学校があるだけで築けるものではありません。歴史を支えてきた先輩たちがいてこそ今日があるのです。その想いから、「基本は君たち。一人ひとりの輝きを大切にしたい」と生徒に語りかけました。

一方、学内に目を向けると、中高一貫コースの中学と高校、さらに高校の特進コースと進学コースがある総合体であり、一つの学校というイメージにはめ込もうとするのは難しいというのが私の実感です。ただし、いずれのコースにおいても、「浄土真宗の教えに基づき人間教育」を建学の精神として共有しています。入学式で聖歌隊の歌を聴き、私は心が穏やかになるよ

うな感動を覚えました。新入生も同じ想いだっただけではないでしょうか。そこから始まる筑女ならではの教育を基盤としつつ、現在は、創立110周年に向けた5カ年計画「筑女プラン」の具体的な実施内容をアクションプランとしてまとめようとしているところ

先生方と議論を重ねて「筑女プラン」の実現を

では、これからの筑女にとって何が最も大切なのか。それはまず、生徒一人ひとりと向き合うことと、生徒の話を聴き、傍に寄り添い、語りかけることなくして、理想に描く姿は実現しません。また、そのために、理想を単に簡単に数値化するのではなく、先生方と議論を重ね、深めたいと考えています。進路指導部は生徒一人ひとりの将来を見据えた進路の実現を図り、教務部は整然とした授業スタイルを構築し、生徒指導部は社会に信頼される学校づくりの基本となる生徒指導を実践するといったこと

を目指していきます。

実は既知の先生が一人もいない本校に着任するときの私は、見知らぬ土地に落下傘で降り立つような気持ちでした。しかしながら、先生方は危機意識を持ち、熱心に私の話に耳を傾けてくれています。「筑女ではこうしてきましたが、公立校ではどうなのだろう」と尋ねられることもしばしば。その姿勢には、「本校で当たり前とされてきたことを改めて見つめ直そう」という先生方の熱い想いを感じています。

そうした想いに応え、筑女が堅持すべきことと変わるべきことを見極め、「筑女プラン」の牽引役になるのが私の役目と思っています。「校長が変わると学校が変わる」と言われますが、その姿を広く知っていただき、筑女の情報を発信するため、新たにブログも立ち上げようと考えています。管理職と先生方、先生方と生徒、学校と保護者や地域との信頼をより強めながら、自ら先頭を切つて筑女の発展に貢献したいと思っています。

創立110周年(2017年) 時点のあるべき姿

質において
西日本随一の学園

今後、各学校の具体的なアクションプランについては、本誌にて随時レポートしていく予定です。

ブランド展開実施基本方針 (アクションプラン)

学校ごとに12項目(※)にわたる
重点課題・目標を抽出し、実行

※【宗教教育】【女子教育】【教育】【園児・生徒・学生支援】【国際交流】【研究・研修】【広報・入学定員確保】【社会貢献】【施設・設備】【管理運営】【財務】【新規事業】

「筑女プラン」の全体像 2017年のあるべき姿(各学校の到達目標)

- 附属幼稚園
 - ・「響流の森」と一体となった教育・保育環境の実現
 - ・子育て支援に対する社会貢献への取り組みなど
- 大学院・大学・短期大学部
 - ・学生自らが成長を実感し、達成感を自覚できる教育実現
 - ・新たな学部改組計画の進行など
- 法人本部事務局
 - ・各学校と連携した将来構想の実現など
- 高等学校・中学校
 - ・男女別学の特性を活かした女子教育
 - ・自己の進路実現に向けた取り組みなど